

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里	ユニット名	南
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成28年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年10月28日	評価確定日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「好きに暮らして、明るく安心」をモットーに安心で安全・安楽な生活環境の提供を心がけています。その方の、今までの生活リズムを大切にしながら利用者の健康や事故防止に努め、スタッフの健康にも気を付けるよう努めています。ユニット会議などで利用者の状況を常に共有しチームケアの強化に努めています。月に1回は外出支援を行うようにしています。花見・コスモス見学・初詣などで四季を感じて頂いたり、洋食・和食・中華など「何が食べたい？」と聞いて、なるべく希望にそったお店を探して、美味しい物を食べに行けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

29年1月、“グループホーム田尻の里”は開設から10年を迎える。地道に地域交流を深めてこられ、保育園児との交流も楽しみの1つになっている。施設長、管理者、計画作成担当者を含めて新体制になり、情報交換を密に行うことを心がけ、外部研修の機会を増やし、ミーティングでの勉強会も行われている。今後も引き続き、他施設との交流やネットワーク作りを強化していく予定である。日々の生活でも、広いリビングでレクや体操、カラオケが行われ、冬は炭火で焼き芋をしたり、夏はスイカ割りやソーメン流し等を楽しまれている。焼肉やステーキ、お寿司等の外食の機会も作られ、笑顔の写真が増えている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯、バラ湯、レモン湯等も行っており、行事の企画を含めて職員のアイデアが活かされている。職員個々の能力や個性もあり、今後もチームワークの結束に向けた検討を続けると共に、個別面談の機会も作られていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理念を理解しているかは不明なため、ユニット会議で理解を深める勉強会を行っていく予定である。	5つの理念があり、ユニット会議や日々のケアで振り返りが行われている。幹部体制や勤務シフトの変更が行われる中、職員同士の連携強化に努めてこられ、保育園児等との交流も継続し、笑顔を増やす取り組みを続けている。	管理者を含めて新体制になっている。今後更に原点に立ち返り、ホームの理念(福祉の理念)を職員間で共有すると共に、職員の個別面談も行い、日々のケアの実践状況を振り返る予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	傾聴ボランティアや年に数回保育園児の来苑、また近所の仕出し屋や寿司屋等を利用しているが、地域の行事には参加できていないため、少しずつ機会を増やしていきたい。	施設長が地域に出向き、地域との連携を深めている。敬老会等で保育園児と交流しており、ボランティアの方も演芸の披露や生け花を教えて下さっている。中学生の体験学習も受け入れ、レク等を楽しまれている。	保育園児や中学生等との交流は恒例で、ご利用者の楽しみになっている。今後は更に、小学生との交流方法を検討したり、民生委員の方々との集いに参加する等、地域交流を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な働きかけは出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や利用者様の様子等、細かく報告している。家族から意見、要望にもきちんとした対応をするように心がけている。	会議でのご意見を活かし、道路沿いにホームの看板を設置したり、ホーム内に職員の写真と名前を掲示する事ができた。災害対策や感染予防等の情報交換も行われ、今後は「近くの川(農業用水)の防災対策」等を、市の方と一緒に情報共有できればと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に行っていない。	28年度に管理者が変わり、日々の業務等の不明点は市役所に電話で相談し、書類変更に関するアドバイスも頂いた。市主催の研修(権利擁護、感染症、虐待)に参加すると共に、地域包括の担当者とも情報交換し、空き室がある時の紹介等をして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアに対して、スタッフ間にて常々疑問を持ち、話し合い・声掛け・注意を行っている。	職員全員“身体拘束をしない”という方針を共有し、心身状況に応じて低床ベッド等を利用している。感情不安定な時は不安や混乱を減らす方法を検討し、医師に相談したり、家族と過ごす時間も作られている。日中は玄関を開錠し、日々の見守り等を強化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し、内容をミーティングにて発表を行い、勉強会をするようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会にできる限り参加し、ミーティングにてスタッフ全員が理解するようにしている。	職員は制度に関する外部研修を受講し、他の職員に伝達している。入居契約時に家族に制度を説明しており、家族から相談を受けた時も説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限りご家族と話し合い、説明し納得して頂けるよう努力している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、家族カンファ等にて要望や意見を聞くようにしている	面会時の会話を大切にされている。信頼関係を築けるように努めており、職員の離職等も説明している。家族から「毎月の行事をホワイトボードに書いてほしい」「年間行事予定を早めに出してほしい」等の要望を伺い、早めのご案内に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて提案されたことはできる限り反映されていると思う。	施設長は職員の意見を大切にされており、日々の業務内容も詳細に報告する体制ができています。ユニット間の異動については個別に希望を確認し、行事のアイデアも活かされている。ヒヤリハットの原因分析も継続し、職員のチームワーク作りを続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な職員評価がない為、今後の職員のやりがい、能力向上のためにも評価の導入を検討してもらいたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施できていると思う。	採用時は資格を問わず、やる気やお人柄、経験、良い意味での「強さ」等を大切にしている。採用後も研修希望を聞いて勤務調整したり、職員の特長(飾りつけ、裁縫など)を発揮して頂いている。施設長は職員の頑張りや評価しており、現場の課題分析を一緒に続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施できていると思う。	ご利用者個々の家族を思いながら関わる事、人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと等を職員と共有している。福祉の精神を大切に、言葉遣いに配慮し、家族の前でも同じ態度ができるように伝えている。今後も理念の振り返りを行う予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受けさせてもらっており、ミーティングにて勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流やネットワーク作りへの参加をもっと積極的に取り入れていきたいと思っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や家族からのアセスメント等にて本人理解を務め、関係作りを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実施できている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親しみをこめた声掛けを行い、他者という壁を作らず家庭的な雰囲気作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族カンファ等にて、スタッフだけではなく、ご家族の方の支援も出来る限り積極的に取り入れていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ協力をお願いしている。一時帰宅や家族との外出の依頼など。	入浴時や団欒時などに、生活歴や以前の仕事、食べたい物などを教えて頂いている。家族と一緒に美容院や自宅、お仏壇参り等に行かれる方もおられ、知人や家族がホームに来て下さり、居室でゆっくり過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じソファや近くに座って頂き、穏やかに過ごせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所後も出来る限り面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人の思いや希望に寄り添う努力はしているが、重度な認知の方がほとんどであり、本人方位になっているか不安は残る。	センター方式「私の暮らし方シート」やケアチェック表等を使用し、生活歴やケア内容等を記録している。意思疎通が困難な方も表情等から意向の把握に努めている。「家に帰りたい」「農協に行きたい」「お肉が食べたい」等の要望を伺い、外食に行かれたり、毎週自宅に帰られる方もおられる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族との雑談で情報を取り入れている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で密な情報交換、共有に努めるよう心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングや家族カンファ等で話し合いを行っている。	ご利用者、家族との担当者会議を行い、要望を確認している。自立支援の視点も大切に、植木の手入れや洗濯物たたみ等の役割と共に、レク等の楽しみも盛り込まれている。計画別表には24時間全般のケア内容を記載している。	今後は更に、アセスメントの中に、有する能力(できる能力・できそうな能力)と各活動の要望、BPSD行動の背景(原因)を記録すると共に、介護計画の短期目標を具体化していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できていると思うが、スタッフ全員が共有できているかという不安な面もある。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では難しいが今後いろいろのニーズに柔軟に対応していけるようになりたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施できていると思う。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施できている。	往診が可能であり、森本医院にかかりつけ医を変更される方もおられる。職員は日々の観察を続けており、少しの変化も主治医に報告し、指示を頂いている。医療連携会議を開催し、訪問看護師とも連携しながら、喀痰吸引や留置カテーテルの交換にも来て下さっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施できている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、家族との情報の共有を行うよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いは行っている。スタッフの終末期ケアの勉強不足を感じるため、今後、研修や勉強会を行っていきけるよう努める。	「ここで最期まで」と願われる方が多い。ホームでできる事などを説明し、ご本人と家族の要望を確認しながら、同意書も記入して頂いている。24時間体制で母体医院の医師が訪問して下さり、訪問看護も利用しながら、誠心誠意のケアが行われている。	今後も終末期に関する勉強を続けていきたいと考えている。ミーティング時の勉強会や外部研修の機会を増やすと共に、終末期の医療連携体制(医師や訪問看護師)のマニュアル作りも検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて常々、説明、話し合いを行っているが、スタッフ全員が理解し行動できるか不安な面もある。シュミレーション等の勉強会に力を入れていくように努める。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、訓練を行っている。地域との協力体制は築けていないように思う。	台風の前は西警察署から防災等の連絡を頂いている。火災発生時マニュアルを事務所に貼り、職員は日々確認している。運営推進会議の参加者等と訓練が行われ、医院には救護活動等の依頼をしている。災害時は水と非常食等を備えており、医院の2階に避難する事もできる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のように接するため、雑な声掛けになっている時が少々ある。	排泄や入浴時等は耳元でお誘いしている。職員の言動が気になる時は、職員個々に言動の意味を確認するようにしている。ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動に気を配り、馴れ合いにも注意している。個人情報の管理にも努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや表情の読み取りで、本人様の気持ちや希望を理解するよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の排泄のタイミングを把握しトイレ誘導したり、食後はゆっくりとTV視聴して頂く等その方のペースに合うように努力はしているが、業務中心になってしまう事もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容は特に気を付け行っている。2ヶ月に1回、訪問理美容を利用したり、外出や行事の時は普段よりおしゃれな服を着てもらおうようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高い方がほとんどなので食事に準備や片付けをするのは難しい。	昼食は外注されており、朝食と夕食はホームで作られている。ご利用者の希望や栄養面を考慮した献立が作られ、食事が楽しみの1つになっており、テーブル拭き等、できる所は手伝って頂いている。職員も可能な限り一緒に食事をされており、日曜日は必ず一緒に食べられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が入らないような利用者には栄養補強ゼリーやドリンクで補うようにしている。脱水状態にならないようこまめな水分補給を心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人によっては全介助することもあるが、自身でできる方には、して頂き、最後に仕上げ磨きを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを知り、回数や様子をスタッフ全員が理解し支援できるよう努力している。	可能な限り、トイレに座って排泄できるように努めている。布パンツ(パット)を使用し、自立されている方もおられ、移動のみ介助が行われている方もおられる。車椅子利用の方も立位訓練を行い、転倒防止バーに掴まって頂き、安全に排泄できるようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2日排便がない時は起床後牛乳を飲用してもらい、トイレにて腹部マッサージをして排便を促している。3日排便がない時はかかりつけ医に報告し、坐薬等の処置、または訪問による摘便を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	努力はしているが車いすで立位保持が難しい方が多いため、ハード面でリフト等が導入されればもっと気持ちよく入浴して頂けると思う。足浴をしたり季節によって入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯等楽しんで頂いている。	午後の活動を有効にする目的もあり、ご利用者にも確認しながら、午前中に入浴されている。お風呂好きな方が多く、湯船に浸かれており、足浴やシャワー浴などの希望も大切にしている。柚子湯や菖蒲湯の他に、「変わり風呂」と称し、バラやレモンを浮かべて楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方には無理に休んでもらわずホールにて一緒にTVを見たり、雑談したり、お茶を飲んだりリラックスできる状態をつくっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努力している。服薬前に日付け、名前、食前、食後の確認を怠らないよう日々、気を付けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝って頂いたり、本人の希望するちぎり絵やドリル等に取り組んでもらえるよう努力はしているが、スタッフが一緒に取り組むのは難しい。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の外出レクや外食等、予定をたて実施している。天気が良い時にはホームの駐車場にて日向ぼっこを行うようにしている。	福岡マラソンの応援を皆さんで行っている。食事が楽しみな方が多く、焼き肉やステーキ、お寿司等の外食を楽しまれている。季節の花見に行かれたり、糸島の海沿いのドライブやみかん狩り等も楽しまれている。家族と一緒にドライブや外食をされたり、お孫さん宅に行かれる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持たないようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身体的、認知度的にも電話や手紙のやり取りは希望されない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮していると思う。	玄関の外で焼き芋をされる時もある。リビングは広く、天窓から陽が差し込み、ご利用者が手入れする観葉植物も置かれている。除菌も可能な大型の空気清浄機があり、冬は加湿器を使用している。車椅子に乗り、モップ拭きをして下さったり、レクや体操もされている。座席の配置を工夫することで、発語が増えた方もおられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを設置し、食事するスペースと区切り、空間の切り替えをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきたタンスや棚を使って頂き、思い出の品や写真などを飾って頂いている。	居室には寝具や和筆筒、鏡台、仏壇等を持ち込まれている。職員が仏壇にお仏飯をあげ、ご本人も手を合わせている。家族が持参された植木鉢にお水をあげたり、以前愛用されていたソーイングセットや毛糸等も飾られ、使い慣れた食器なども持参されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり設置やホールの広さが十分にある 為、車いすでも自由に行き来できるようにしている。テーブル、いす等危険がないよう配慮に気を付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		